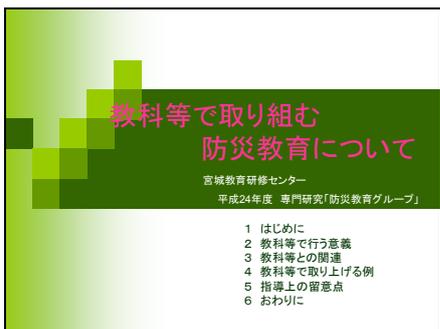


ス
ラ
イ
ド
1



～進行要領例～ 約10分

これから、「教科等で取り組む防災教育」についての講義を始めます。

内容については、スライドの画面にあるとおりに進めていきます。

各教科等で防災教育に取り組む視点をみんなで確認していきましょう。

ス
ラ
イ
ド
2



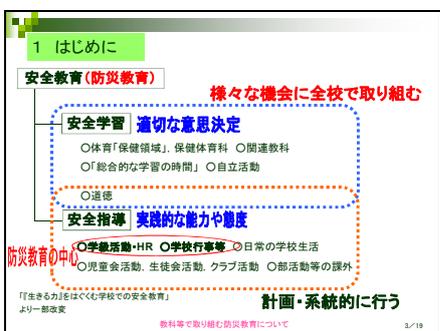
私たちは、東日本大震災という全く想像もしなかった大きな災害を経験しました。

この経験を通して、学校における防災教育の大切さを誰もが実感したのではないのでしょうか。

防災教育を行う上で重要なことはたくさんあります。地域を知ること、あらゆる想定で訓練を行うこと、教育活動全体で取り組んでいくことなど挙げればきりはありません。

防災教育は確かに重く難しいものではありませんが、教科等の指導におけるこれまでの取組を視点を変えることではじめの一步を踏み出せると思います。

ス
ラ
イ
ド
3



「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」によると防災教育は、ねらいによって取り扱う場面が安全学習と安全指導に分かれています。

これまで防災教育の中心として行ってきた学級活動や学校行事を通して、これからはしっかりと計画的そして系統的に指導していくことが大切です。

この「指導」に加え、様々な機会を捉え、「学習」を行っていくことで、より防災教育を充実させていくことができると思います。

ス
ラ
イ
ド
4

2 教科等で防災教育を行う意義

なぜ教科で防災教育なのか…

確かな知識の裏付け

- ・起こり得る自然災害
- ・自然災害の特色
- ・国土の特質 …

↓

実践的な能力・態度 **発揮**

普段の学習指導の中で確かな知識に基づいた防災意識を高める

教科等で取り組む防災教育について 6/19

この「安全学習」を行う場面が各教科の学習です。この中で児童生徒に確かな知識に基づく防災意識を高め、適切に行動できる力を育てることが大切です。

なぜ教科で防災教育を行うのでしょうか。

児童生徒が自然災害の前兆を察知し、危険を回避する行動を主体的にとることができるようにするためには、自分達が住んでいる地域の自然災害や特色、土地の特質などの基礎的な知識を身に付けている必要があります。

確かな知識があってこそ実践的な能力や態度が発揮されるのです。

我々教員は普段の学習指導の中で確かな知識を身に付けさせることにより、児童生徒の防災意識を高めていくことが大切なのです。

ス
ラ
イ
ド
5

2 教科等で防災教育を行う意義

なぜ教科で防災教育なのか…

指導により身に付けた内容

↓

学習により**補充・深化・統合**

どのように判断すればよいか

どのような行動をすればよいか

どうすれば安全なのか

なぜ危険なのか

教科等で取り組む防災教育について 6/19

また、「安全学習」では学級活動や学校行事等の「安全指導」によって身に付けた内容を、補充・深化・統合することもできます。

例えば道徳教育は、道徳の時間を要として教育活動全体で補充・深化・統合を図るよう推進されています。

同じように、防災教育も「安全指導」で身に付けた内容を各教科や総合的な学習の時間等で、児童生徒自身に「どのように判断すればよいか」「どのような行動をすればよいか」等を自分の問題として考えさせる時間を作ることによって補充・深化・統合を図ることができます。

それが思考力や判断力を高め、適切な意思決定につながることにより、「生きる力」となると考えます。

ス
ラ
イ
ド
6

3 教科等と防災教育の関連と実践例

学習内容で特に関わりの深い教科等

特別活動

総合的な学習の時間

学級・ホームルーム活動
学校行事
児童会・生徒会活動 等

限られた時間を確実に実地
視聴覚教材等の活用

<単元例>

- ・町たんけん
- ・防災マップづくり
- ・災害と町作り
- ・地域の安全と防災

地域

教科等で取り組む防災教育について 6/19

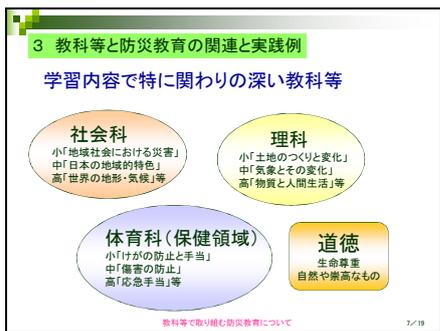
では実際にどんな教科で防災教育の学習を行うことができるのでしょうか。

特別活動や総合的な学習の時間は、児童生徒の主体的な学習として行いやすいため、既に防災教育を実施している学校も多く見られます。

特別活動では、年間の中で防災に関するものは限られていますが、確実に実施することが大切です。そして、数多くの視聴覚教材がありますので、それらを活用するなど工夫して授業を行ってみてください。

総合的な学習の時間における小学校・中学校・高等学校の単元例はスライドに示したとおりです。地域の歴史や環境を知り、自分達のこれからの在り方を考えさせたり、未来や他の地域に伝えたりする学習を組み立てて欲しいと思います。

ス
ラ
イ
ド
7

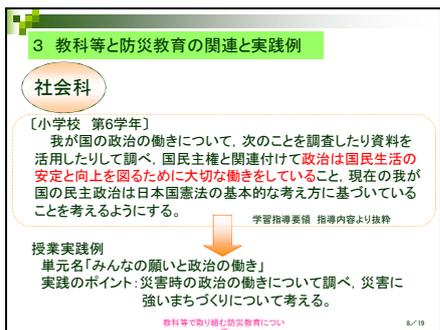


特別活動や総合的な学習の時間以外の各教科においても、今の学習指導要領のままで防災教育を行うことが可能です。

各学年の教科の中には、特に授業時間を用意しなくても地震や津波、防災に関する授業の内容があります。

特に防災教育と関わりの深いのが、社会科、理科、体育科（保健領域）、そして道徳です。

ス
ラ
イ
ド
8

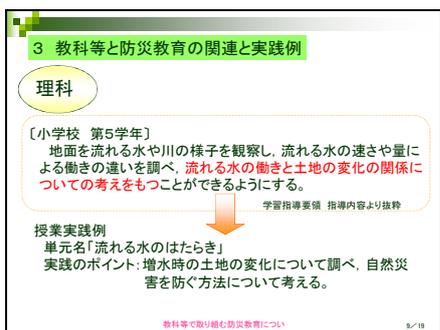


社会科と防災教育はねらいがよく似ています。学習指導要領の各学年の指導内容にも防災教育に関連した記述が多く見られます。

例えば小学校6年生では、スライドのような指導内容が記述されています。

教科書では、「みんなの願いと政治の働き」という単元で、福祉センターから人々の願いにつながっていますが、それを震災時の町の働きを想起させながら人々の願いへとつなげることができます。

ス
ラ
イ
ド
9



理科で育む問題解決能力は、防災教育のねらいの1つとしている「周りの状況に応じ、自らの命を守り抜くため主体的に行動する態度を育成する」ことに通じています。

社会科同様、学習指導要領の各学年の指導内容に防災教育に関連した記述が多く見られます。

小学校5年生では、スライドのような指導内容が記述されています。

実際の授業では、「流れる水のはたらき」の単元で、増水時の土地の変化について調べ、そこから自然災害を防ぐ方法を考える活動が考えられます。

ス
ラ
イ
ド
10

体育の保健分野では学習を通して得た知識が、危険予測・危機回避の能力の育成につながり、自他の生命や安全を守る資質や能力の基礎となります。中学校の学習指導要領では、傷害の防止についての内容が示されています。実際の指導では、写真やビデオを利用して自然災害や二次災害による傷害について理解させ、それらの多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できることを考えさせることができます。

また、体育における着衣水泳や背浮きの授業も防災教育として重要です。

ス
ラ
イ
ド
11

自己の生き方を問う道徳では、これまで以上に人的・物的環境への理解や関わりを深く確かに見つめさせていく必要があります。

小学校、中学校の学習指導要領には、共通でスライドのような4つの視点で内容が示されています。

それらの内容で特に指導者自身が防災教育に関連するものとして大切にしたい3つの視点をスライドの下の部分に示しています。

ス
ラ
イ
ド
12

それ以外の教科でも視点を変えることで防災教育としての学習を行うことができます。

我々教職員が防災の意識をもつことで、これまでの教科の学習が防災教育として再構築されるのです。

ス
ラ
イ
ド
13

国語科では多くの教材において防災教育を行うことが可能です。

読むことの領域では、自然災害や戦争体験を扱った題材を教材とし、そのときの行動や生き方を考えることができます。

書くことの領域では、順序よく書くことをねらいとした作文の題材に避難訓練や災害時の行動を扱うこともできます。

話すこと・聞くことの領域では、討論のテーマとして自然災害への備え方等を取り上げることもできます。

その他に読書指導や漢字指導などでもスライドのような活動が考えられます。

ス
ラ
イ
ド
14

3 教科等と防災教育の関連と実践例

算数・数学科 **自分の生活に結び付くもの**

「時ごとと時間」…〇〇市では3mの防潮堤があるそうです。3mは何cmでしょう？

「百分率とグラフ」…〇〇地震は今後90%の確率で発生するといわれているそうです。90%を小数点で表しましょう。

「相似な図形」…(建物と防潮堤が写っている写真を用意) 建物の高さは5mである。このとき防潮堤の高さを求めましょう。

教科等で取り組む防災教育について 14/19

算数・数学科では、教師が身の回りの様々な問題を「防災」という観点から見つめ直して取り上げることにより、児童生徒が防災をより身近な問題として捉え、生活に生かすことができます。スライドにいくつかの単元での取り上げる問題例を示していますが、自分の住む市町村や学校、地域のことを取り上げると、より生活に結び付くものとして捉えることができると考えます。

ス
ラ
イ
ド
15

3 教科等と防災教育の関連と実践例

技術家庭科

「作っておいしく食べよう」学習指導要領(日常の食事と調理の基礎)

- 料理中に地震が発生したときの対処法を理解する。
- 調理実習を吹き出し訓練として行う。

「物や金銭の使い方と買い物」(身近な消費生活と環境)

- 非常時に情報を得たり、選択したりする力を培う。

「地域とのつながりを広げよう」(家庭生活と家族)

- 地域の人から過去の災害について聞いてみる。

「快適に住まう」(快適な衣服と住まい)

- 災害に対する家屋の安全対策や非常持ち出し品として用意しておくものを考える。

教科等で取り組む防災教育について 15/19

技術家庭科においては日々の暮らしの営みを扱う中で、自然災害対策を含め、安心・安全な生活への知識や実践力を身に付ける学習を行うことが大切です。学習指導要領の指導内容の全ての領域で防災教育につながるものがあります。

ス
ラ
イ
ド
16

3 教科等と防災教育の関連と実践例

生活科 「学校、まち、公園たんけん」

- 防災対策(消火器、非常口)を探し、役割を理解する
- 学校やいろいろな場所で地震が起きたら、どうするかを理解する

英語科

- 災害、防災に関する図書や資料をテキストとして用いる。

教科等で取り組む防災教育について 16/19

生活科においても様々な単元で防災教育の内容を取り扱うことができます。

「学校たんけん」や「まちたんけん」では、避難場所や防火水槽等の防災に関するものを探し、それらの役割を理解させる活動が考えられます。標識や表示などにも注目させたいものです。また、たんけんを基に防災地図作りを行うことも可能です。

英語科では、災害や防災に関する図書や資料をテキストとして用いることが可能です。

このように防災の意識を持つと授業での様々な活動や内容が考えられます。

ス
ラ
イ
ド
17

5 指導上の留意点

- ・教科の目標ー防災教育の目標 2本立て
↑優先
- ・地域の実態を考慮
(地域の施設、団体の活用)
- ・年間指導計画の作成を・・・!

教科等で取り組む防災教育について 17/18

ここで防災教育を各教科等で指導する場合の留意点を3つ確認します。

各教科には教科本来の目標があります。防災教育の目標と関連する場合はさほど問題にはなりません、2本立てになる場合も考えられます。その際は教科の目標や内容を児童生徒に身に付けさせることを大切にしてください。

次に地域の実態を十分に考慮することです。自然災害には地域性が伴います。教師自身が地域で起こり得る自然災害についての知識を身に付けると共に、地域にある施設や防災に携わる団体等と連携し、協力しながら授業を進めることがより一層教育効果を高めることにつながると考えます。

さらに、ぜひ行ってほしいのが各学年のそれぞれの場面において「防災教育の視点」や扱い方などを具体的に明記した年間指導計画を作成することです。どのような心や力を養うかを考え、年間を通して計画に沿った指導を目指して欲しいと思います。

ス
ラ
イ
ド
18



ここまで、各教科等における実践例や取り上げ方の例を紹介してきましたが、学校内で学年、教科等の役割分担をしながら、ぜひ有効な取り上げ方を考えて、実践につなげてください。

各教科等で防災についての関心や知識・技能を高めた後は、総合的な学習や学級活動でそれらを基にして、自らの力で自らの課題を追求できるような学習を組み立ててみてください。

教育活動全体で防災教育を行うことで「生きる力」を育んでいきましょう。

ス
ラ
イ
ド
19

教科等で取り組む
防災教育について

宮城教育研修センター
平成24年度 専門研究「防災教育グループ」

主な参考文献
 ・「釜石市津波防災教育の手引き」(H22 岩手県釜石市)
 ・「学習指導要領」(H20 文部科学省)
 ・「教科・道徳で取り組む防災教育」(H24 東京書籍)
 ・「『生きる力』をたくむ学校での安全教育」(H22 文部科学省)